

「水戸線中編成ワンマン運転」施策の実施に対する水戸地本見解

2021年3月13日、水戸支社は「2021年3月ダイヤ改正」において、労使の認識一致が図れないなかで「水戸線中編成ワンマン運転」を開始した。この施策の実施によって水戸線を守る列車には車掌が乗務せず、運転士単独での列車運行を余儀なくされるが、鉄道輸送における安全やサービスの観点から想定されるリスクへの対応・対策は極めて不十分であると言わざるを得ない。なぜなら、水戸支社は日々業務を担ってきた現場の声を無視して施策実施を強行したからであり、施策実施日を迎えても「やってみないと分からない」という不安の声が職場に渦巻いているからである。

水戸支社は、この施策の目的を「置き換え可能な仕事を機械化・システム化し、限られた人材を人ならではの創造的な仕事へシフトしていく」として、これまで車掌が担ってきた役割を車載カメラや車載ホームモニタシステム、ホーム検知装置等に置き換えたことで、必要な設備整備を進めてきたとしている。それ故、これら設備には安全性や正確性、信頼性が求められることは言うまでもなく、列車運行から車掌の要員を削減する施策であることから、その精度に対しての妥協は許されるものではない。

しかし、運転士へのハンドル訓練ではハード・ソフト両面で様々な問題が浮かび上がった。とりわけ、車載カメラと車載ホームモニタシステムには「死角」があるが、カメラを切り替えなければ見えない箇所があり、モニタシステムは天候に左右されるだけではなくホーム上の景色と同化する現象が発生し、モニター画面で確認しづらい場面が発生している。さらには、白杖や傘等のドア挟まりが検知できないなど、設備上の様々な欠陥によって列車進入出時の触車やホームからの転落事故への懸念が生じている。水戸支社は、これら設備の欠陥を認めつつも「運転士のできる範囲でやってもらえれば良い」として対策を講じないが、このような設備と指導によって現場に不安を与えていることを施策の責任者として自覚すべきである。そして、車掌の仕事には成り代われない設備の実態を看過することはできない。将来的に目指されている自動運転の前に、中編成ワンマン運転すらまともに運用できるのかを危機的に捉えるべきではないか。

一方、運転士の基本動作がこれまでよりも大幅に増えたことで停車駅毎に遅れが生じることが明らかになっている。友部～小山駅間では相当の遅れにもなり、小山駅での列車接続に影響を及ぼすことは言うまでもない。しかし、水戸支社はこれまでの列車ダイヤを変えることなく、「実施当初は若干の遅れが生じることは想定している」としてワンマン運転に慣れるまでの問題に切り縮めているが、これはあくまでも乗客を乗車させない訓練段階の結果であり、実際に乗客が乗車すれば、訓練以上に注意深く基本動作を行ってドア扱いをしなければならぬ。まして、ワンマン運転設備の不備へのカバーが必要となればさらに遅れが生じる可能性があるのだ。そして、仮に安全を蔑ろにした「慣れ」や時間だけを気にしての定時運行を優先する風土が醸成されれば事故のリスクは高まるばかりか、事故を起こせば運転士の過失として責任を問われるのである。

私たちは決して施策そのものに反対しているわけではない。施策を実施するうえで、安全に万全を期すことは大前提である。だからこそ「申21号」緊急申し入れでは、当面の間、ワンマン運転列車に車掌を乗務させて検証し、問題解決を図ったうえで本実施について判断することを強く求めたのである。しかし、誰しもが安全と輸送サービスの低下を懸念して不安を訴えても「支社ができると言っているから問題ない」と封殺され、試行と検証を踏まえた当たり前の施策実施を求める声さえ否定されたのでは堪ったものではない。このような姿勢を貫くならば、会社がその一切の責任を負うべきである。

そして、この施策には車掌の要員削減が伴っていることを忘れてはならない。これまで車掌が担ってきた乗客案内や車内秩序の維持、異常時や災害時の対応は困難を極めることは明らかである。また、水戸線の駅体制は本体駅が下館駅のみであり、業務委託駅を含め夜間は無人の駅も多く、バリアフリー設備も十分に整っていない。慢性的な列車の遅れにとどまらず、利用者の利便性や交通弱者に対する対応力も確実に悪化するのである。さらに、運賃逋脱の横行は地域社会の治安悪化にもつながることが懸念され、これらを顧みず独善的な経営姿勢を続ければ、公共性や地域性を高めるはずのJR東日本会社が地域社会から取り残されてしまうのではないか。

全組合員に訴える！水戸地本は、現場の声と安全を度外視して施策実施を強行した水戸支社の姿勢を断固許さず、乗客の命と安全・安心して利用できる水戸線を守り抜くために「物を言い続ける」ものである。そのためにも、「ワンマン訓練行路での食事時間の問題」や「管理者の言動により乗務不安を訴えた運転士に対し、処分が下された事象」を改めて捉え返し、その怒りを多くの労働者と共有して検証運動に突き進もうではないか！そして、この施策によって想定されるリスクと会社姿勢を組織の内外に発信し、人間労働と地域を大切にすJR東日本会社を創造する闘いに決起していこう！

2021年3月13日

JR東日本輸送サービス労働組合水戸地方本部執行委員会